

Power Automateでさくっと作ってみました

日商エレクトロニクス株式会社

NE | NISSHO ELECTRONICS × **DIGITAL LABOR**

DX第二事業本部 デジタルレイバー推進部二課
システムエンジニア

作治 元康



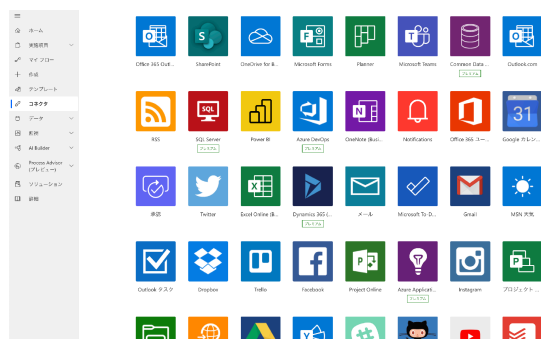
あなたにもお手伝いさんを

- ・自動化やRPAは「ロボットが人の代わりに業務処理を行う」といったイメージをお持ちではないでしょうか。
- ・デジタルワーカー、業務効率化、基幹システムという言葉も一般化しており、全社的なIT化として取り組んでいる会社も多いです。
- ・全社的な取り組みとは別に、目の前の手間な作業を自動化できれば楽になるのに、と思ったことはないでしょうか。
- ・簡単だけど毎日なら手間な業務にPower Automateは最適です。

クラウドフローとデスクトップフロー

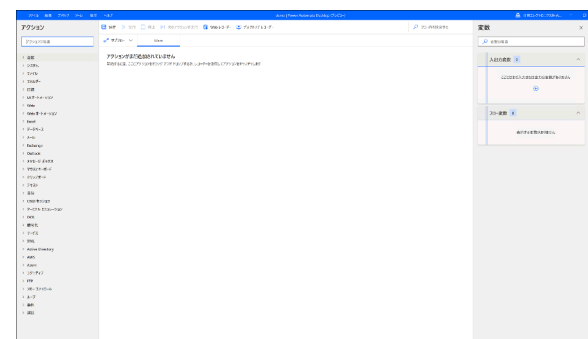
Power Automateは用途に合わせて二つのフローが用意されています。
クラウドフロー（旧フロー）はコネクタやテンプレートが用意されたフローです。
デスクトップフロー（旧UIフロー）はRPA機能を持ったフローです。

クラウドフロー（Webブラウザ）



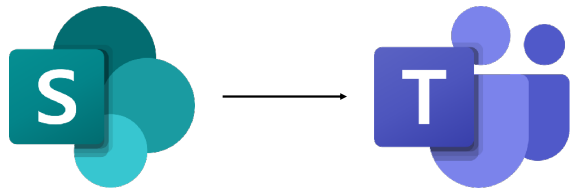
- Web APIが提供されているサービスの操作
- コネクタ
- テンプレート

デスクトップフロー（Power Automate Desktop）

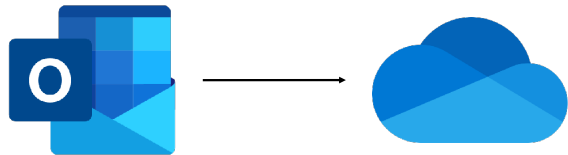


- PCのマウスやキーボード操作
- PC上のアプリケーションの操作
- PC上ファイルの操作

Power Automateでは容易に実現できます



SharePointにファイルが作成されたら
Teamsに投稿



Outlookに新着メールが届いたら
添付ファイルをOnedriveに保存



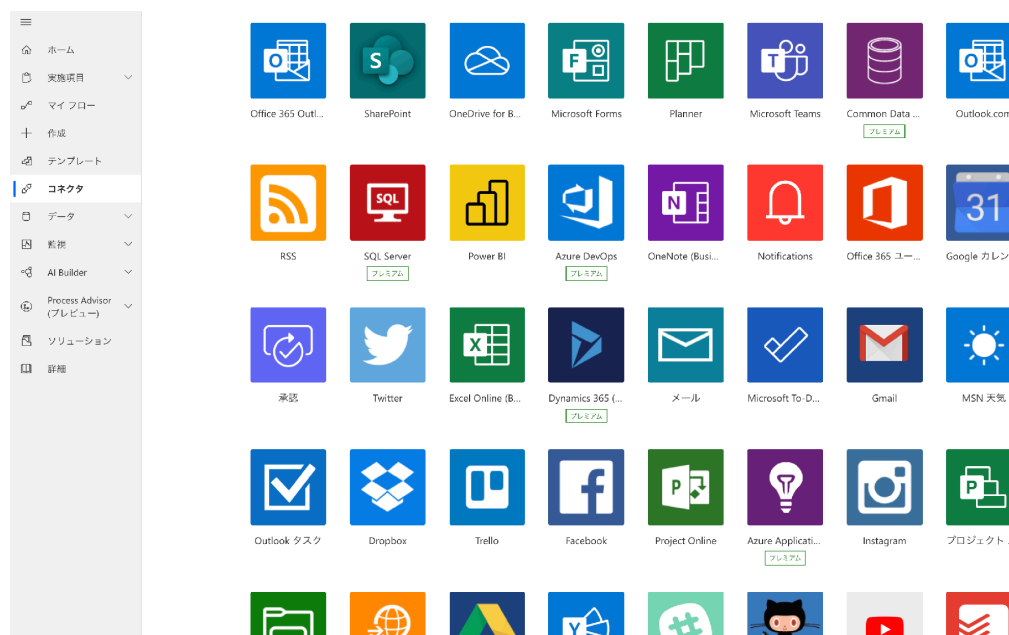
TwitterにTweetが登録されたら
承認を行いSlackに投稿

コネクタ

Power Automateの特徴の一つが、他社サービスも含めて400種類以上あるコネクタ群です。

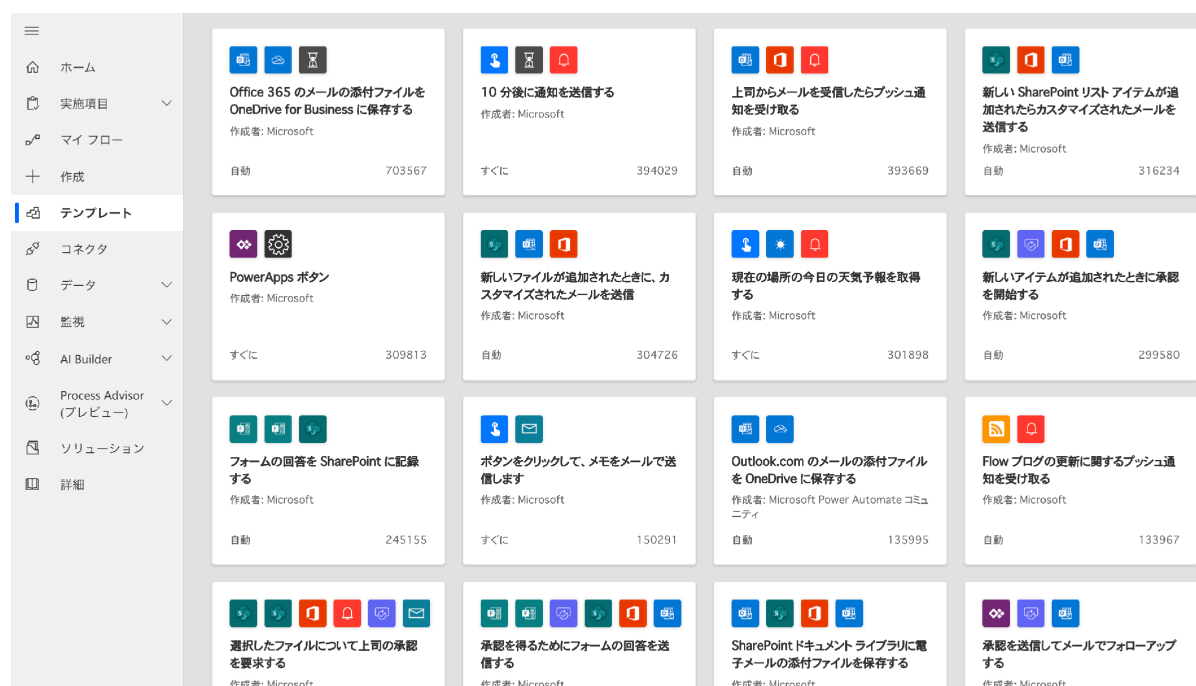
Power Automateではこのコネクタを組み合わせで作成します。

サービス毎に接続するための部品を、作成しなくて良いのが大きな強みです。



テンプレート

コネクタを組み合わせて予め考えられる処理が用意されているのが、テンプレートです。
テンプレートの中から、自身の業務に合うものを選択し、値を入力するだけで作成は完了します。



ローコードプラットフォーム

Power Automateではローコードで作成するため、コードの記述がほぼ不要です。
作成画面がわかりやすくなっており、深い学習も必要なく直ぐに作成出来ます。


The image displays the Power Automate flow editor interface on the left and the generated Lua code on the right.



Power Automate Flow Editor:

- Trigger:** "On new email" with "Inbox" selected as the folder.
- Action:** "Apply to each Attachment on the email".
- Sub-process:** "Create file".
 - Folder path: "/Email attachments from Power Automate"
 - File name: "添付ファイル..." (Attachment file...)
 - File content: "添付ファイル..." (Attachment file...)
- Condition:** A red dashed arrow points to the "Condition" step, indicating a logical flow.

Generated Lua Code (AutomaticArchiveNavigator.lua):


```
1 AutomaticArchiveNavigator.lua C:\Users\Public\Documents
2 --
3 -- AutomaticArchiveNavigator
4 -- This module produces a talk archive banner, together with an automatically-
5 -- generated list of navigation links to other archives of the talk page in
6 -- question. It implements {{Automatic archive navigator}} and
7 -- {{Talk archive navigation}}.
8 -----
9
10 local yesno = require("Module:Yesno")
11
12 -- Helper functions
13 -----
14
15 local function makewikilink(page, display)
16     if display then
17         return string.format('[[%s|]]', page, display)
18     else
19         return string.format('[[%s]]', page)
20     end
21 end
22
23
24 local function escapePattern(s)
25     -- Escape punctuation in a string so it can be used in a Lua pattern.
26     s = s:gsub('%p', '\\%0')
27     return s
28 end
29
30 -- Navigator class
31 -----
32
33
34 local Navigator = {}
35 Navigator.__index = Navigator
36
37 function Navigator.new(args, cfg, currentTitle)
38     local obj = setmetatable({}, Navigator)
39
40     -- Set inputs
```

メッセージを投稿する (V3) (プレビュー)




* チーム

MicrosoftPowerPlatform




* チャンネル

00_お知らせ





* メッセージ


Font





12

































本日はご参加ありがとうございます。Power Automateの手軽さを実感して頂ければと思います。


[詳細オプションを表示する](#) 

メッセージを投稿する (V3) (プレビュー)




* チーム

MicrosoftPowerPlatform



* チャンネル


Teams チャンネル ID の追加



00_お知らせ

General

カスタム値の入力

詳細オプションを表示する 

動作に必要な項目（チーム、チャネル、メッセージ）は予め用意されており、これらの値を設定するだけで動作します。

チームやチャネルの項目はTeamsで定義されているものが、選択項目として表示され、選択するだけで入力できます。

連続した処理

Create item

* サイトのアドレス

例: https://contoso.sharepoint.com/sites/sitename

* リスト名

SharePoint リスト名

[詳細オプションを表示する](#)

メッセージを投稿する (V3) 2 (プレビュー)

* チーム

チーム ID を追加します

* チャンネル

Teams チャンネル ID の追加

* メッセージ

Font 12 B I U

メッセージの本文。

Send an email

* 宛先

メール x ;

* 件名

SharePoint item creation failed

* 本文

</>

SharePoint item could not be created. Possible causes could be the access rights on the SharePoint list.

処理を連続させる場合も、部品をこのように繋げるだけで作成できます

処理のきっかけ

「・・・が行われたら」等の、処理が動作するきっかけが用意されています。
手動実行やスケジュール実行等の定期動作だけではなく、さまざまな起動が可能です。
Power Automateの便利の機能の一つです。



SharePointにファイルが作成されたら



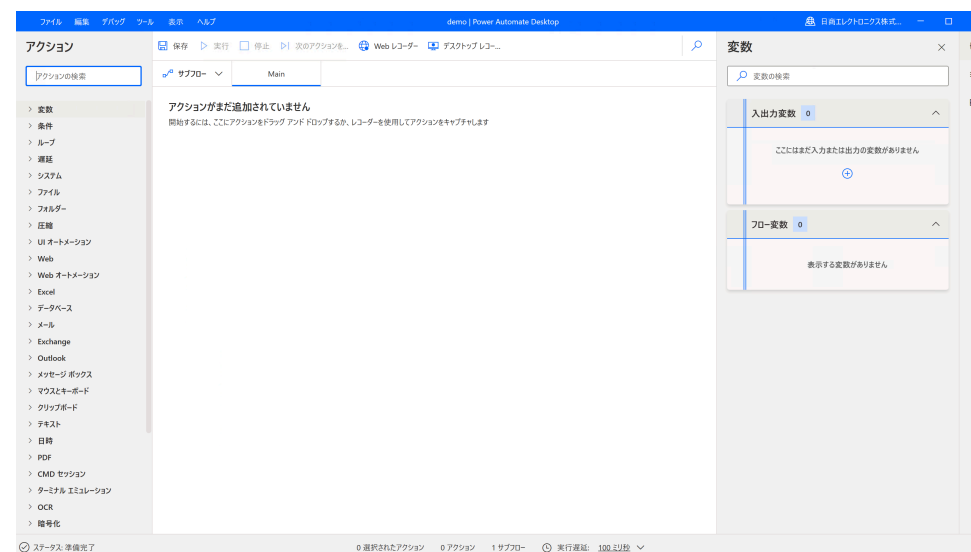
Outlookに新着メールが届いたら



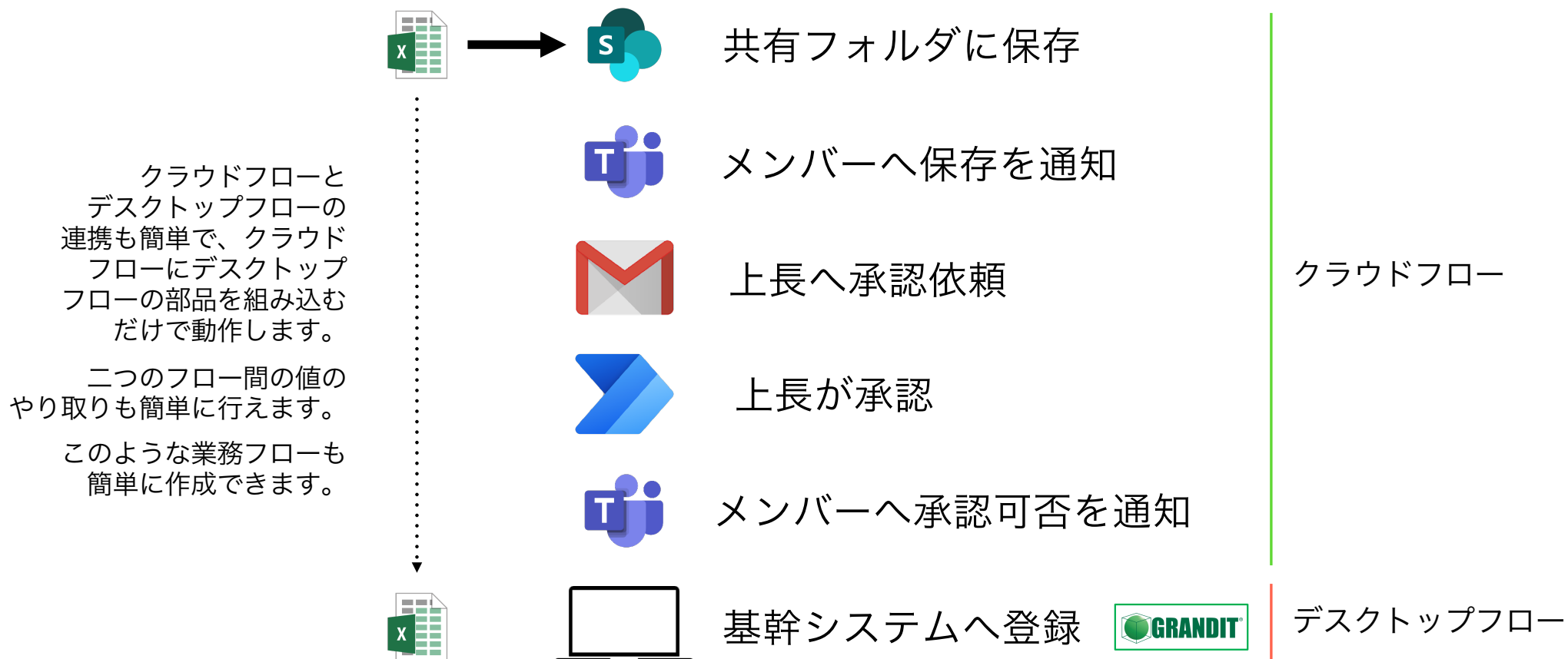
TwitterにTweetが登録されたら

デスクトップフローの実行

Power Automate Desktopは機能として手動実行のみとなります。
クラウドフローのトリガー（処理のきっかけ）と組みわせる事により自動実行が可能になります。



クラウドフローとデスクトップフローの連携

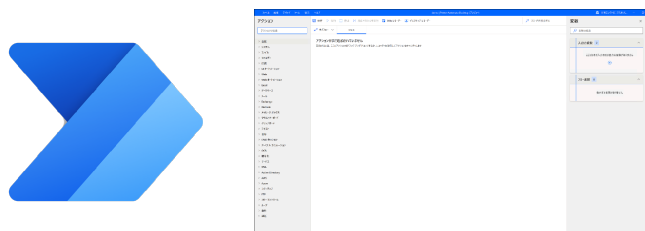


直ぐに始められます

開発環境の準備や、サーバーの準備、ソフトのインストールは不要です。
必要なものはWebブラウザが動作するPCとインターネット回線です。



Power Automate Desktopを利用の場合は、PC操作を行う都合上インストールが必要です。



ライセンスによっては、追加購入不要で始めることが可能なので、今直ぐ利用できます。
ユーザー単位の月額なので、まずはスモールスタートで始めることも可能です。

クラウドフローライセンス

Office 365/Microsoft 365
E1/E3/E5/ Business等のユーザー

Power Automate for Office 365

追加ライセンス不要

- ・ コネクタはスタンダードのみ
オンプレミスのデータ（SQL
ServerやOracle等）は利用でき
ません

コネクタの全てを使う

Power Automate per user plan

1,630円/月

- ・ コネクタは全て利用できます
- ・ オンプレミスのデータ（SQL
ServerやOracle等）を利用でき
ます
- ・ Office 365ライセンスは必須
- ・ ではありません

フロー単位で使う

Power Automate per flow plan

54,360円/月

- ・ Power Automate per user
planと同じ内容で、フロー単位
のライセンスです
- ・ 5件のクラウドフローが利用
- ・ できます
- ・ フロー追加のライセンスも用意
されています

※価格は2021/3現在、Microsoft社のWebより

デスクトップフローライセンス

Windows 10 ユーザー

Windows 10

追加ライセンス不要

- Power Automate Desktopの全ての機能が使えます
- クラウドフローとの連携は出来ません（手動実行のみ）
- 管理機能は使えません
- Windows 10 Homeは有償プランは使えません

全ての機能を使う

Power Automate per user plan with attended RPA

4,350円/月

- Power Automate per user planにPower Automate Desktopが追加されたライセンスです
- Power Automateの全ての機能が利用できます
- 無人型PCでの利用は
Unattended RPA add-on 16,310円
が必要です

※価格は2021/3現在、Microsoft社のWebより

Power Automateのススメ

Power Automateならではの

- 簡単に作成できる
- 直ぐに始められる
- ライセンスが柔軟

これから初めてみたい

まずは始めてみましょう

まず目の前にある「これ自動で動くとちょっと楽かも」
と思う簡単な業務を作成してみましょう。

Power Automateは、準備も不要で直ぐに始められ、
作成も簡単です。

Officeユーザーならライセンス購入は不要です。

既に導入・経験済み

既存RPAの隙間を埋めましょう

自動化要望が多く捌けない場合は、個人やチームの
業務をPower Automateで作成すれば、
さらなる業務効率化が望めます。

作成が簡単なので、自動化要員の増加も見込めます。

ライセンスが月額なので、使いたい時だけ使えます。

弊社取扱製品GRANDITの宣伝を少し・・・

日商エレクトロニクスのGRANDIT

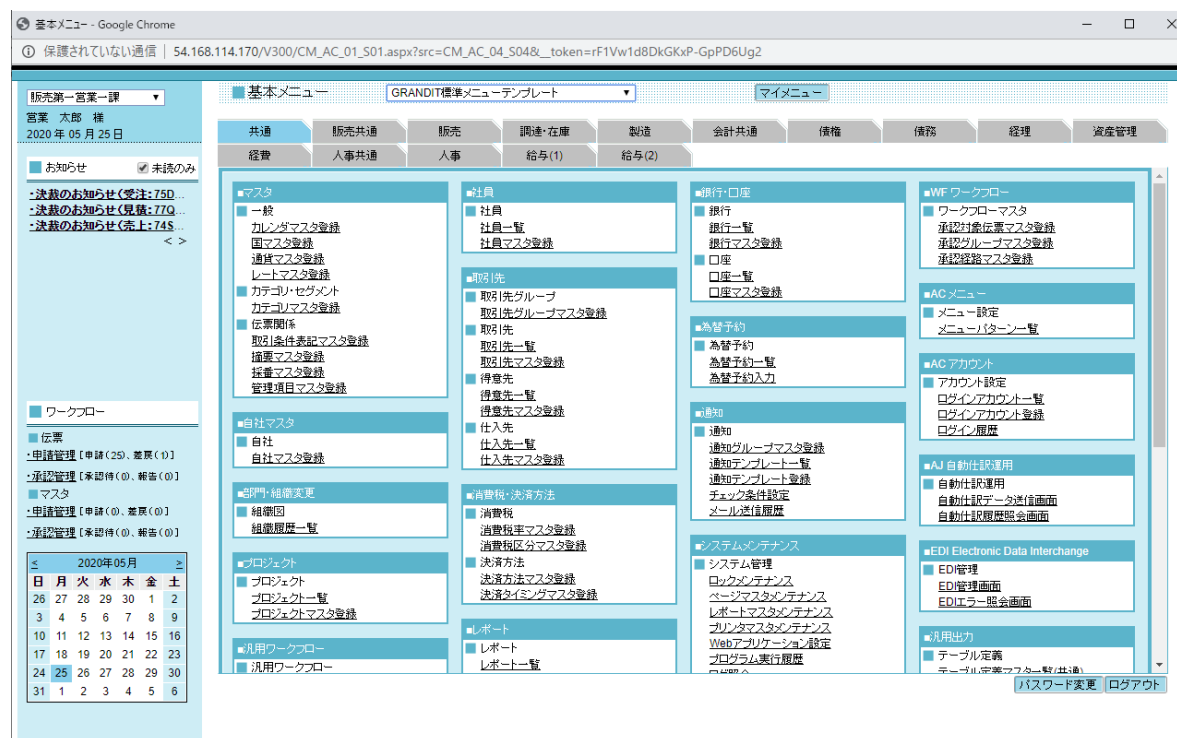
弊社基幹システム



純国産 完全WEB-ERP

オールインワン

幅広い企業規模や業種に適応



「複数の企業が叡智を出し合って日本企業の成長を支えていこう」
この理念のもと、コンソーシアム企業の叡智から生まれた“進化系”ERP